

北海道国有林における造林事業の 省力化、低コスト化の取り組み

我が国の森林は、戦中戦後の大量伐採により一時期荒廃した時期はあったものの、戦後、盛んに造林を進めたこと等により、人工林が森林面積の約4割を占めるまでになりました。

現在、この人工林の多くは成熟期を迎えており、伐採して有効活用を図ることによる地域経済への貢献が求められています。

しかし、伐採後に再度森林を造成するための経費（造林経費）負担が大きく、民有林の一部には伐採そのものを手控える傾向や、伐採後に植林をしないまま放置されるところといった状況が見られます。

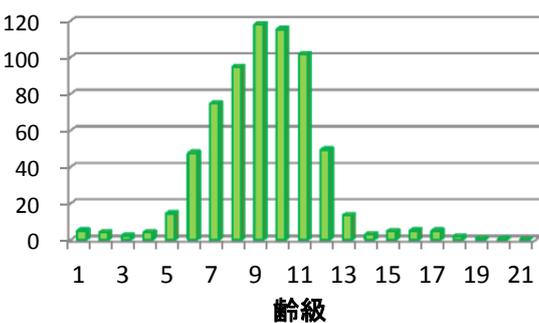
このような状況を打破するために、造林事業の省力化や低コスト化が今、強く求められています。苗木を植えて育てる作業は人力作業が中心で、ここ50年来あまり変わっていません。そこで、ここ数年来、

北海道森林管理局ではコンテナ苗の導入による植付作業の効率化、伐採から植付までの作業を一貫して実施することによる間接コスト縮減、大型機械を利用した地拵え作業と下刈り作業の回数削減、優良品種の導入、天然更新木の活用等を進めています。

また、これらの取り組みの成果は、民有林の造林事業にも活用していただけるよう、普及・定着に向けて取り組んでいく考えです。

（森林整備第一課）

千ha 北海道国有林の人工林年齢別面積



②伐採に伴う枝条を森林作業道脇に集積し、地拵えを省力化



①持続可能な林業経営、効率的な作業に向け現地踏査



④森林作業道脇に集積された末木枝条を破砕機でチップ化し、販売



③末木枝条量調査を実施し、地拵えの省力化を検証



⑥アースオーガ（穴掘機）を使用したコンテナ苗の夏期植栽



⑤伐採時に使用したの重機でササ等を除去し、地拵え時の重機運搬経費を削減



⑧初期成長の良いクリーンラーチを使用した無下刈りの試行



⑦植栽後の草本類繁茂抑制のためのチップ敷マルチングの現地報告会の実施



⑩大型機械地表処理による天然更新技術の検証



⑨一貫作業やコンテナ苗夏期植栽、大型機械地拵等に係る意見交換会を実施



⑫植生回復状況調査プロットを設定し、下刈り作業の省力化・低コスト化を検証。



⑪着果促進に向け環状剥離を実施



⑭コンテナ苗植栽事業結果報告会には、苗木生産者や造林事業者、多数が参加。



⑬コンテナ苗夏期植栽後、根系の発育を観察